

8-9 大屋町ご馳走祭りにボランティアとして参加

大屋町ご馳走祭りは「おおやごちそうの会」主催で平成21年9月に第1回が開催され、今年で第4回目となりました。私達シルバー大学院生は、第1回より保田学長のお奨めもあり、理事会承認も得て、希望者でお手伝いをすることにしました。養父市はハチ高原や神鍋高原に近い兵庫県北部の山間に位置する緑豊かな山村です。又毎年大屋町主催で行われている全国木彫コンクールでも有名な町です。ご馳走祭りの主催者は、おおやごちそうの会と養父市地域局の皆さんで、その協力者として神戸シルバー大学院とおおや村役場の会で構成されています。おおやごちそう会は活発で、おおや町で活動している女性の集まり「農村に生きる女性たちの勉強会」が母体で保田学長の村おこしの話を聞き自分たちに出来る活動をしようと和田真由美会長を中心に活動が続いています。

- (1) 健康（自分、家族、地域が健康であること）
- (2) 安全（安全な食べ物をつくる、食べること）
- (3) 楽しむ（作ること、食べること、話すこと）
- (4) 学ぶ（昔からの食べ物、行事食、健康食）
- (5) にぎわいづくり（ごちそう祭り、おおや市）

が目的で実にすばらしく、お手伝いのやりがいのある女性団体です。

毎回、私達SGS生は1台の貸し切りバスで楽しく参加します。もう仲間になった皆様に温かく迎えられる、男性はかまど3基でのご飯炊き、農産物や加工品の販売。女性は地元産菜種油での天ぷら・みそ汁づくりと地元の女性の方々と共に献立作りに活躍しました。

いずれのメニューも皆様に好評で、かまどで炊いた地元産新米、蛇紋岩米ご飯の美味しいこと、特に最近食べられない「オコゲ」もお年寄りになつかしいと好評です。野菜も女性の皆様が持ち寄られた物で新鮮で格別です。「ご馳走」って豪華な肉や魚の材料の事でなく「我が家の畑で採れた食材でもてなす」という意味があるそうです。「地域の食材や地域の資源を見直すことは、地域の農業や地域の人々を元気にさせる事につながるのではないか。地域の農業や人々が元気になれば、町に活気があふれ子供達の声が響き渡る町になるのではないか」・・・そんなふうに思いながら活動をしていますと、和田真由美会長の素晴らしい話です。

又会場内で行われる保田学長の食に係る講演も毎年ながら大変好評です。来客数も今年は特に多く賑やかでしたが、昼食も約300食を早々に完売し、実に楽しい一日でした。「来年も又来てネ」のおおやの女性の方々のお誘いもあり、毎年ボランティアを続ける予定です。

8期生 吉田 英

平成21年初夏、保田先生から「大屋町でご馳走祭りという新しい企画を始めるので、都会からの応援があると祭りも活気付くので、みなさんで出掛けてみませんか？」とのお話がありました。理事会での賛同も得て、9月にさてどのようなお祭りなのかと楽しみにバス一台で出掛けました。町も私たちも初めての試みなので、何をお手伝いすればよいか打ち合わせもないままに、特にSGSの男性陣は時間を持て余していました。

カマド係りの町の男性陣も女性陣の助手感覚の体で、ようやく炊き上がった二番手のごはんはシンがあったりして～。でも、自家製タクアンや佃煮など、山の空気共々美味しくいただきました。

二年目は初年目の反省の上にたち、共同作業で祭りをもりあげられるように、女性は台所方の手伝

い、男性は土産物の販売係りなど失業の憂き目を見ずに済みました。またこの機会にと近場の明延鉦山の廃坑跡などの見学も企画にいました。大屋町とのご縁の結果、毎年大屋町主催で行ってきた全国木彫コンクールの優秀作品展が神戸の県立美術館で平成22年7月に開かれた時も、2週間ローテーションを組んで、SGSの学生が監視当番で協力致しました。

まず女性が立ち上がり、つられておそまきながら男性も村の活性化に本腰をいれはじめるパターンとお見受けしましたが、その緒を付けられ、その気にさせたのが保田先生であり、大屋町は良き灯台を見つけられたのだと思いました。元気な村は今どきの都会より生き生きしているかもしれません。大屋町とSGSの絆のスタートに携わった者にとりまして、お互いに学びあいながらこの絆を深め、広げていってもらえたらと願うばかりです。



3期生 徳原 尚世



保田茂先生 講演会場



かまどでメシ炊き



「少々お待ち下さい」



配膳「いらっしゃいませ」



本日の献立（天ぷら、みそ汁、漬物、ご飯）



加工品販売風景